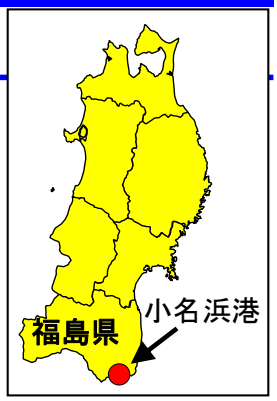
小名浜港 本港地区・東港地区 防波堤整備事業

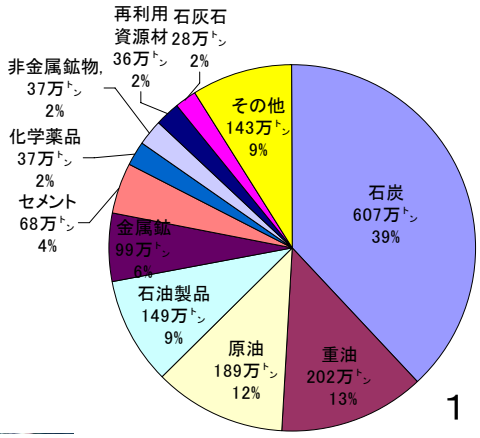
○ 小名浜港の概要

・臨海工業地帯を支える重要港湾（S26年指定）
・石炭火力発電所などエネルギー供給基地
・東京～仙台間の重要な避難港



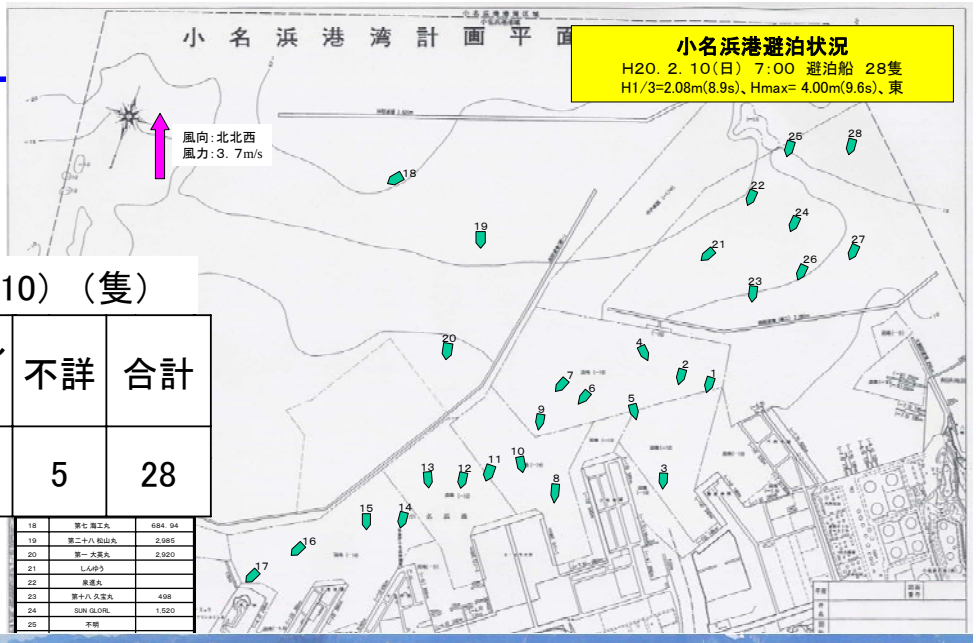


H19年取扱貨物量
1,595万トン



1

○避泊の実績



避泊実績（H20. 2.10）（隻）

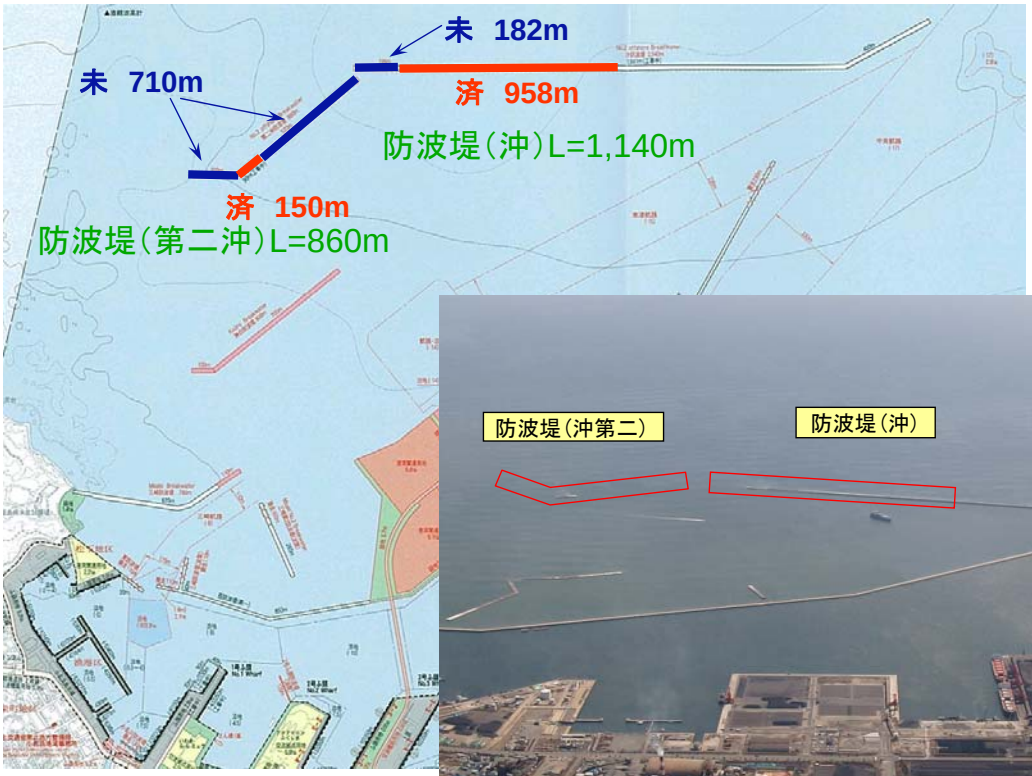
500t以下	500～1,000t	1,000～3,000t	不詳	合計
17	3	3	5	28



2

○事業目的

【目的】・避泊水域確保による海難の減少
・輸送の信頼性確保



3

○事業概要及び進捗状況

事業費	806億円（H20年度迄　投資額:424億円，進捗率:53% H15年度迄　投資額:356億円，進捗率:44%）

対象施設＼年次	S62	・・・	・・・	H6	・・・	・・・	H19	H20	・・・	・・・	H30	進捗率（施設別）	進捗率（全体）
本港地区防波堤（沖）												79%	53%
東港地区防波堤（沖第二）												23%	

・本港地区防波堤(沖)
　延長1,140m(うち、整備済:958m、未整備:182m)
・東港地区防波堤(第二沖)
　延長　860m(うち、整備済:150m、未整備:710m)
・合計
　延長2,000m(うち、整備済:1,108m、未整備:892m)

○前回評価との比較

◆前回評価時費用便益比との比較
・前回評価時　Ｂ／Ｃ＝１．８
・今回評価時　Ｂ／Ｃ＝１．５

◆前回評価からの変更事項
○港湾投資の評価に関する解説書の改訂

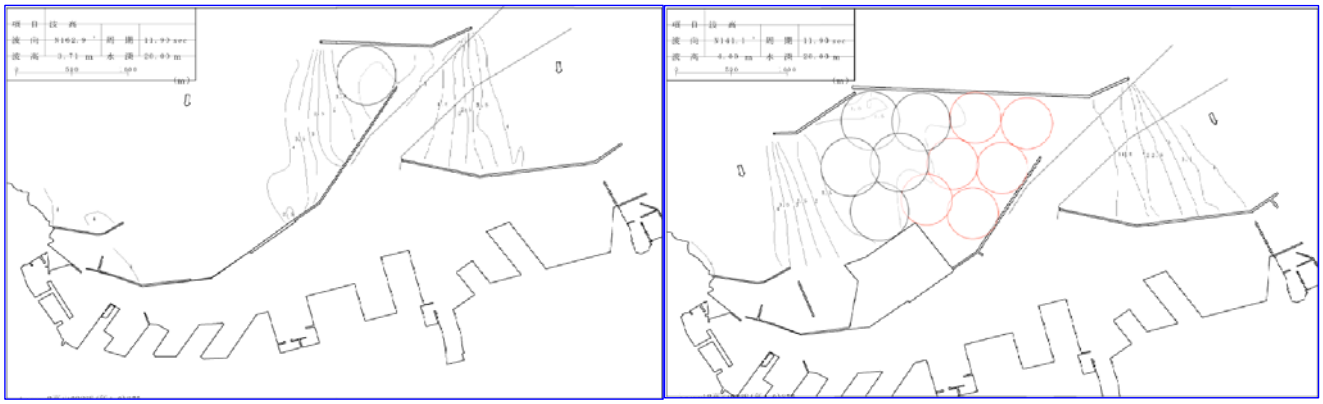
⇒ 船舶損失額など原単位の減

○入射波及び反射波の変更
・防波堤の設計波の変更
・反射波：東港地区護岸消波の整備進捗により低減

⇒ 避泊可能隻数の増加（10隻 → 11隻）

○便益の考え方

【防波堤整備なし】　１隻　　【防波堤整備あり】　１１隻



○避泊可能増加隻数
・事業全体
１１隻（with）－１隻（without）　＝１０隻
・残事業
１１隻（with）－５隻（現状）　＝　６隻

○費用便益分析結果

	事業全体の投資効果	残事業の投資効果
B:便益(現在価値化後)[億円]	1,576	646
C:費用(現在価値化後)[億円]	1,038	274
費用便益比(CBR)B／C	1．5	2．4
純現在価値(NPV)B－C[億円]	538	372
経済的内部収益率(EIRR)[%]	6．5	12．9

○定性的に把握する効果

・目的地により近い港湾で避泊可能となることから、待機時間の短縮、船舶の安定航行が可能

○対応方針(原案):事業継続

・事業の投資効果が認められる
・地元からの要望が強い
・事業が進捗

7